

## 44-1 広報関係

## 病院歯科の役割－コロナ禍における情報発信について－

堺平成病院 歯科

しまたに ひろゆき

○島谷 浩幸（歯科医師）

【背景】令和2年は新型コロナウイルスの影響が大きな社会問題となり、各種学会や交流会が中止・自粛されるなど3密を避けるために人の集まりが制限され、病院に来院する患者の減少も余儀なくされる中、病院の一般市民に対する重要な役割としての医療情報の提供も変化ある対応が求められる。当院の広報委員長を務める身として模索する次第だが、私が所属する歯科の対応策を報告する。【方法】当院歯科は病院ホームページでの紹介やブログでの活動報告に加え、歯科受診を勧めるチラシの院内掲示・配布、リコール葉書の送付等を行った。【結果】患者数の維持・増加に貢献し、コロナ禍で減少した患者数の回復及び情報提供の継続を実践できた。【考察】健康維持に健康な口は大切だが、超高齢化社会で有病者が増加する現状で病院歯科の重要性が今後増すことが予想される。健康な口は①摂食機能の向上、②生き甲斐の取得、③リハビリテーションの効果促進・姿勢安定による転倒防止（寝たきり予防）、④誤嚥性肺炎の予防、⑤咀嚼機能向上による認知症の予防・進行抑制など様々な利点があり、病院歯科が全身の健康維持・改善に果たす役割は大きい。当院歯科は歯科医師1名、歯科衛生士6名、歯科助手1名体制で外来及び入院患者の診療を行うが、病棟（全296床）で衛生士2名が口腔ケアに巡回し、タイムリーな患者状態の把握、病棟との連携強化を実現している。当院の患者は外来・入院とも高齢者中心で重度の虫歯・歯周病の罹患率も高いが、歯科はNSTの一員として栄養摂取の改善にも関与し、虫歯治療や抜歯、その後の義歯作製に至るまで食べることに加えて退院後の快適な生活維持（QOLの向上）もサポートするなど、内容は多岐にわたる。患者・家族と良好な関係を築くには十分な情報提供は不可欠である。【結論】コロナ余波が懸念される今後も病院歯科の活動に関し、ネット等の情報ツールもうまく活用して広く伝えていきたい。

## 44-2 広報関係

リハビリリンクとともに  
～施設の垣根を越えて繋がる法人の輪～

1 春日部厚生病院 リハビリテーション部, 2 春日部厚生クリニック リハビリテーション科, 3 南部厚生病院 リハビリテーション科

なかがわのぞみ

○中川 望 (理学療法士)<sup>1</sup>, 三浦 由樹<sup>1</sup>, 雨宮 雄大<sup>1</sup>, 西村 公男<sup>2</sup>, 川内 洋平<sup>3</sup>, 中島 一道<sup>1</sup>, 南本 浩之<sup>1</sup>

## 【はじめに (背景)】

病院内で「リハビリテーション」という言葉を使用する機会が多いが、一般の方々には、馴染み深いとは言えない分野である。先行研究における一般市民に対する知名度調査では、「リハビリテーションを知っているが、何をしているかよくわからない」、「理学療法を知らない」という回答が多い。当法人では、3つのリハビリテーション部門が協力して「リハビリリンク」という広報誌を発行し、リハビリテーション内容及びその魅力の情報発信を図っている。発行に伴う法人内での取り組みと今後の展開について、考察を交え報告する。

## 【方法】

リハビリリンク発行・消費部数増加の為、様々な取り組みを行った。取り組みに関わるスタッフや読者への聞き取り調査を行い、取り組みに対する反応をまとめた。尚協力者には口頭にて倫理的配慮を説明の上、回答を持って同意を得た。

## 【結果】

2018年1月より年4回の刊行を継続し、現在第10号の発行を行っている。消費部数は開始当初、発行2,500に対し1,443部の配布に留まっていたが、集計が終わっている第8号では発行部数を3,000部に増加し2,695部まで消費しており86.8%増加している。一方、聞き取り調査の結果、認知度が上がっており、「手渡す際に、すでに広報誌を認識している人が多くいた」など前向きな意見が多い中、「発刊のタイミングが明確でなく、直接配布するペースに迷う」等の声も聞かれ、今後の対応が求められた。

## 【考察】

現在、法人施設内での配布のみならず、養成校や地域専門職団体への配布も展開している。「リハビリテーション」を身近に感じてもらう取り組みの成果も実感している。また、今回の取り組みで、施設の垣根を越えた繋がりを感ずることができた。この繋がりを広報活動を契機に、次の展開にも繋げていけるようにしたい。多くの人の為になる「リハビリテーション」を。「リンク」から次の「リンク」に。